

# 平成 22 年度（前半）利子助成交付対象者の経営状況と投資内容

## （平成 22 年度農業経営基盤強化資金利子助成金等交付事業）

平成 23 年 3 月  
（財）農林水産長期金融協会

当協会が受託した『平成 22 年度農業経営基盤強化資金利子助成金等交付事業』の事業効果の 1 つとして 22 年度に交付を決定した利子助成交付対象者の経営状況と投資内容を把握分析したものである。

本事業の成果として農業者の自主性と創意工夫を活かした経営改善を促進する利子助成の内容を明らかにし、本事業の的確かつ効果的な運営に資することを目的としている。

### 要旨

平成 19 年度から平成 21 年度までの 3 年間、認定農業者が借り入れる農業近代化資金とスーパー L 資金を対象として無利子化措置が実施された後、平成 22 年度に貸付当初 5 年間の無利子化措置が実施されているが、この間の利子助成対象者の投資動向と無利子化措置の影響は次のとおり。

19 年度から 21 年度までの無利子化措置はそれまでの利子助成交付決定件数を倍増させ、農業機械等の更新需要などに十分応えてきたため、22 年度には、農業経営環境が改善されたとは言いがたいことから農家の投資は激減するとの見方もあった。

しかし、22 年度からの 5 年間の無利子化措置は、10 月末までで見る限り、農家の投資意欲に応えるものであった。特に農業近代化資金は無利子化措置が始まる前の 18 年度の状態を超え資金需要が高く、L 資金は有利子がなくなったものの無利子資金分には変化がないなど、引き続き農家の経営改善意欲と規模拡大に応え、農家の経費負担減に大きく貢献していると思われる。

21 年度までの無利子化措置導入でほとんどの資金使途で大きく増加し、特に増加したのは更新期と重なった農業機械の購入であったが、22 年度も引き続き農業機械の割合が高く（L 資金ではコンバインからトラクターに重点が変わったが）、省力化・規模拡大に貢献したと思われる。

5 年間無利子に変更された影響については、例えば、法人経営の畜産部門で肉用牛肥育の家畜購入に変化が見られないものの建物・施設等長期にわたるものの平均投資額が縮小するなど、投資額や投資期間に影響があったと見受けられるが、投資内容や利子助成対象者の経営内容には大きな違いがなく、無利子化措置導入期間、同じような効果が続いていると思われる。

経営規模については、特に法人経営では投資額が半減したものの、引き続き大規模農家の対象者が多い。

22 年度に導入された戸別所得補償関連については、経営形態別には稲作主体農家が 8 割以上であったが、露地野菜、畑作主体農家等が稲作部門で戸別所得補償に参加し、利子助成を受けたケースもある。資金使途としては、農機具の取得が 85% で主食用米の生産と経営改善に貢献した。

## 目次

概要（19年度から21年度までの無利子化措置との比較を中心に）	
1 利子助成交付決定件数の動き	1
2 借入額別割合	1
3 資金使途別割合	2
4 経営部門別割合	3
5 農業経営規模別割合	5
平成22年度（前半）利子助成交付対象者の経営状況と投資内容	
1 農業近代化資金の投資内容（戸別所得補償関連を含む）	6
2 スーパーL資金の投資内容（戸別所得補償関連を含む）	10
3 経営部門別資金使途	
（1）農業近代化資金	14
（2）スーパーL資金	15
4 建物・施設の取得及び農機具の取得の内訳	
（1）農業近代化資金	16
（2）スーパーL資金	18
（資料）本分析における資金使途の例示	20
無利子化措置に対する融資機関の意向	
1 無利子化措置の効果について	21
2 融資機関における担い手への情報提供	22

### （注） と の利子助成交付対象者の経営状況と投資内容の係るデータの取り方

平成22年10月末までの利子助成交付対象者の経営改善資金計画書のデータである。経営改善資金計画書に記載のない場合は不明としたため項目ごとの合計値は異なる（特に、簡素化様式の場合、記載されていない項目がある場合がある）。

同一の借入時に複数の資金使途（投資目的）がある場合は、最も大きな借入金の投資目的を採用した。例えば、1回の借入で土地改良、農機具の取得等複数の投資目的を達成した場合で最も大きな投資目的が農機具の取得であれば、第1目的の農機具の取得を資金使途とした。

22年度については、スーパーL資金の利子助成対象は500万円超の5年間無利子化措置に限られるが、他の申請案件と併せて500万円超になる場合は認定されるため、500万円以下のケースも1件として計上した。農業近代化資金の無利子資金も同様である。

## 概要（19年度から21年度までの無利子化措置との比較を中心に）

### 1. 利子助成交付決定件数の動き

- ・利子助成交付決定件数は無利子化措置の導入により倍増したが、22年度は無利子化期間が5年間に限定され、かつ無利子であった省エネがなくなったものの、農業近代化資金は省エネ分が無利子と有利子に分散移行し、引き続き根強い資金需要があり、L資金も有利子がなくなったものの無利子相当分には変化がなく、引き続き農家の規模拡大と経営改善意欲に据えている。

第1表 利子助成交付決定件数（上段：件）及び金額（下段：億円）

	農業近代化資金				L資金				合計		
	無利子	省エネ	有利子	合計	無利子	省エネ	有利子	合計	無利子	有利子	合計
18			3089	3089			2343	2343		5432	5432
19	2642		1966	4608	4912		770	5682	7554	2736	10290
20	2771	103	1550	4424	4346	1138	968	6452	8358	2518	10876
21	1080	1114	1801	3995	1317	1533	1389	4239	5044	3190	8234
	97	98	52	246	218	279	256	753	691	308	1000
うち 前半	468	618	720	1806	208	984	660	1852	2278	1380	3658
	40	55	19	114	34	170	82	286	299	101	401
22 前半	778	-	797	1575	1095	-	-	1095	1873	797	2670
	66	-	21	87	217	-	-	217	283	21	303

### 2. 借入額別割合

- ・個人経営は、農業近代化資金は500万円以下の有利子資金割合が増加したが、L資金は500万円以下が500万円超に加算された他は大きな変化はない。
- 法人経営は、両資金ともに投資規模が19～21までより小さくなった。

第2表 借入額別件数割合

借入額別 件数割合	個人経営				法人経営			
	農業近代化資金		L資金		農業近代化資金		L資金	
	19～21	22前半	19～21	22前半	19～21	22前半	19～21	22前半
（割合）	100	100	100	100	100	100	100	100
500万円以下	45	55	17	1	20	23	5	2
500超～1千	42	37	42	60	45	51	21	41
1千超～2千	13	9	24	25	22	17	19	23
2千超～3千			7	7	7	4	11	12
3千超～4千			4	2	7	6	7	3
4千超～5千			2	2			8	3
5千超～1億			3	3			13	8
1億円超			1				16	7

（注）22年度のL資金に500万円以下があるのは、他の申請案件と併せて500万円超になる場合は無利子と認定されるため、500万円以下のケースも1件として計上したため

### 3. 資金用途別割合

- ・個人経営では、農業近代化資金は21年度まで増加してきたコンバイン等の大型農業機械の割合が減り、L資金も農地取得の割合が減少した分農機具の取得などの割合が増加しただけで大きな変化はない。

法人経営では建物・施設の割合が減り、トラクターの購入割合が他と比較して増加した。

- ・平均借入額については、個人経営ではL資金が500万円超に限定されたにもかかわらず、両資金ともにわずかに減少した。建物・施設の平均借入額が小さくなっている。

法人経営ではL資金の建物・施設の取得や農地取得の平均借入額が半減し投資規模が小さくなった。

第3表 資金用途別件数割合

資金用途別 件数割合	個人経営				法人経営			
	農業近代化資金		L資金		農業近代化資金		L資金	
	19～21	22前半	19～21	22前半	19～21	22前半	19～21	22前半
土地改良	1	0	1	0	0	1	1	0
建物・施設	35	40	23	22	35	30	43	33
農機具の取得	49	47	15	19	51	58	15	18
運搬用機具	4	6	0	0	1	3	0	0
果樹等の植栽	0	0	0	0	0	0	0	0
家畜の購入	8	4	5	6	6	3	9	7
長期運転資金	2	2	3	2	1	1	6	3
農地取得	0	0	47	40	0	0	15	14
その他	2	1	6	10	5	4	12	25

第4表 資金用途別平均借入額(万円)、借入額割合（平成20、21年度の平均との比較）

個人経営 資金用途別 平均借入額	H20、21の平均				H22			
	農業近代化資金		L資金		農業近代化資金		L資金	
	平均 借入額	借入額 割合	平均 借入額	借入額 割合	平均 借入額	借入額 割合	平均 借入額	借入額 割合
全体	573	100	1452	100	501	100	1408	100
土地改良	422	0.4	754	0.2	201	0.2	953	0.2
建物・施設の取得	682	42.3	2512	38.7	544	42.9	2194	34.7
農機具の取得	504	43.6	774	8.1	475	45.0	817	11.0
運搬用機具の取得	220	1.4	500	0.1	193	2.2	530	0.0
果樹等の植栽育成	0	0	800	0.0	268	0.0	0.0	0.0
家畜の購入	757	7.9	2355	6.7	926	6.7	1897	8.7
長期運転資金	620	2.5	991	1.5	616	2.2	1389	1.9
農地取得	0	0	1171	39.2	0	0.0	1116	31.4
その他	466	1.7	1180	5.4	294	0.8	1642	12.0

法人経営 資金用途別 平均借入額	H20、21の平均				H22			
	農業近代化資金		L資金		農業近代化資金		L資金	
	平均 借入額	借入額 割合	平均 借入額	借入額 割合	平均 借入額	借入額 割合	平均 借入額	借入額 割合
全体	1104	100	6617	100	1000	100	3726	100
土地改良	627	0.2	3657	0.3	1120	1.4	0	0.0
建物・施設の取得	1445	47.7	10229	65.7	1469	44.1	5180	45.4
農機具の取得	777	34.1	2553	5.9	715	41.5	1343	6.5
運搬用機具の取得	709	1.0	1207	0	770	1.9	530	0.0
果樹等の植栽育成	0	0	880	0	0	0.0	0	0.0
家畜の購入	1572	8.5	7888	8.2	2044	6.4	9748	18.7
長期運転資金	1428	1.7	4234	2.1	824	1.0	8199	6.0
農地取得	0	0	2727	6.4	0	0.0	1211	4.5
その他	1256	6.2	4762	11.2	971	3.6	2788	18.8

#### 4. 経営部門別割合

・全体的には稲作、施設野菜が微増し、これまで好調であったが、21年に経営環境が悪化した養豚は減少した。

農業近代化資金は耕種部門、L資金は畜産部門が比較すれば多いことはこれまでと同じ。

・平均借入額については、L資金の法人の畜産部門ときのこの投資額が大きく減少したのが特徴である。主食用米生産関係は戸別所得補償制度との関連に限定されたが、稲作の平均借入額や借入割合には大きな変化が見られない。

第5表 経営部門別件数割合

経営部門別 件数割合	個人経営				法人経営			
	農業近代化資金		L資金		農業近代化資金		L資金	
	19～21	22前半	19～21	22前半	19～21	22前半	19～21	22前半
稲作	22	25	31	31	40	51	21	25
畑作	5	5	8	8	6	5	4	7
露地野菜	11	11	12	13	6	5	7	7
施設野菜	21	29	6	6	6	9	5	6
露地果樹	5	4	4	2	2	1	2	4
施設花き	7	7	5	5	5	4	3	2
工芸作物	8	3	4	1	4	1	3	0
茶	-	1	-	1	-	1	-	1
酪農	8	6	16	17	8	5	10	8
肉用牛肥育	5	3	6	6	5	4	11	9
肉用牛繁殖	5	2	3	2	1	1	1	1
養豚	1	0	2	2	4	1	14	8
採卵鶏	0	0	0	1	2	1	7	6
鶏肉	0	0	1	0	1	0	3	4

きのこ	1	1	1	1	5	5	3	3
その他	2	2	2	3	5	7	8	8

(注) 19～21の茶は工芸作物に含まれる。以下、同じ

第6表 経営部門別平均借入額(万円)、借入額割合 (平成20、21年度の平均との比較)

個人経営 平均借入額	H20、21の平均				H22			
	農業近代化資金		L資金		農業近代化資金		L資金	
	平均借入額	借入額割合	平均借入額	借入額割合	平均借入額	借入額割合	平均借入額	借入額割合
稲作	612	24.6	1143	25.2	570	27.8	988	21.5
畑作	631	5.4	1248	7.1	651	5.8	1376	8.2
露地野菜	488	9.1	1013	8.0	472	10.5	1131	10.4
施設野菜	493	18.4	1269	5.1	389	22.7	1103	5.1
露地果樹	452	3.9	855	2.4	332	2.6	912	1.4
施設花き	566	6.8	1289	4.1	471	6.7	1014	3.7
工芸作物	469	6.4	1054	2.7	384	2.0	904	0.9
茶	-	-	-	-	385	0.9	1067	0.3
酪農	703	8.8	2301	22.9	783	9.3	1844	21.9
肉用牛肥育	873	5.3	2705	9.8	945	6.2	2888	12.7
肉用牛繁殖	644	5.6	1413	2.7	419	1.6	1053	1.7
養豚	864	1.2	2765	3.9	587	0.6	3248	4.6
採卵鶏	805	0.3	3146	0.9	620	0.3	2976	2.5
鶏肉	824	0.4	3338	1.6	516	0.4	753	0.2
きのこ	729	1.2	1036	0.4	467	1.2	3225	1.2
その他	514	2.1	1049	1.5	332	1.1	1669	3.1

法人経営 平均借入額	H20、21の平均				H22			
	農業近代化資金		L資金		農業近代化資金		L資金	
	平均借入額	平均借入額	平均借入額	平均借入額	平均借入額	借入額割合	平均借入額	借入額割合
稲作	862	30.2	1870	5.4	800	40.0	1245	7.8
畑作	909	4.5	3546	1.9	982	4.9	1213	2.0
露地野菜	914	5.3	3619	3.4	1012	5.1	1210	2.1
施設野菜	1360	7.1	3638	2.1	649	5.7	1835	2.8
露地果樹	676	1.3	1866	0.6	419	0.3	2523	2.5
施設花き	1034	4.5	2520	1.1	902	3.4	2608	1.4
工芸作物	975	3.1	5493	1.9	590	0.4	1528	0.1
茶	-	-	-	-	265	0.3	3683	1.3

酪農	1259	8.4	6030	8.2	1260	6.3	3336	7.0
肉用牛肥育	1738	7.8	9137	12.4	1898	7.1	10049	23.9
肉用牛繁殖	1214	1.4	2763	0.3	700	0.4	5700	1.0
養豚	1717	7.1	9097	18.6	820	1.0	5831	11.2
採卵鶏	1478	1.8	13955	11.8	2050	1.3	8816	12.9
鶏肉	2895	1.8	13529	5.1	0	0.0	4769	5.2
きのこ	1825	7.6	12861	6.9	2165	10.8	7622	6.3
その他	1021	3.8	10614	6.3	1456	10.0	3159	6.3

## 5 農業経営規模別割合

- ・借入者の経営規模については、農業近代化資金は変化がないと思われるが、500万円超に限定されたL資金は対象者の規模が若干大規模化した傾向はうかがわれる。

第7表 借入者の経営規模（農業粗収入・売上高）別件数割合

農業粗収入 ・売上高別 件数割合	個人経営				法人経営			
	農業近代化資金		L資金		農業近代化資金		L資金	
	19～21	22前半	19～21	22前半	19～21	22前半	19～21	22前半
1千万円未	23	23	14	9	8	3	4	5
1千～2千	32	33	23	17	10	7	4	4
2千～3千	19	20	20	19	12	8	5	4
3千～4千	10	9	14	14	11	12	6	7
4千～5千	6	6	9	10	9	15	6	5
5千～1億円	8	8	13	19	25	24	19	27
1億～2億円	2	2	5	8	14	17	20	15
2億円以上	0	0	2	3	10	13	35	33

## 平成 22 年度（前半）利子助成交付対象者の経営状況と投資内容

### 1. 農業近代化資金の投資内容（22 年度前半）

#### 借入額別動向

- ・個人は 500 万円以下が多いものの、法人は 500 万円超～1000 万円が多いなど無利子化措置の影響が見られる。

第 1 - 1 表 農業近代化資金：H22 借入額別件数割合

借入額別 件数割合	個人経営			法人経営			全体		
	無利子	有利子	合計	無利子	有利子	合計	無利子	有利子	全体計
H22前半件数	663	769	1432	118	42	160	781	811	1592
割合	46	54	100	74	26	100	49	51	100
(割合)	100	100	100	100	100	100	100	100	100
5百万円以下	5	97	55	2	81	23	4	97	51
5百万円超～1千	77	2	37	65	10	51	75	2	38
1千万円超～2千	18	1	9	20	7	17	19	1	10
2千万円超～3千				5	2	4	1		
3千万円超～4千				8		6	1		1

(注) 無利子には、他の申請案件と併せて 500 万円超になる場合は認定されるため 500 万円以下も計上した。

#### 資金用途別動向

- ・前年度までと同様、個人、法人ともにトラクター、コンバイン等の農機具の取得が多く、残りはほとんどが建物・施設の取得である。
- ・平均借入額では、個人、法人ともに建物・施設の取得額の方が農機具の取得額より大きいため、無利子では建物・施設の取得の借入額割合が高くなる。

第 1 - 2 表 農業近代化資金：H22前半資金用途別件数割合

資金用途別 件数割合	個人経営			法人経営			全体		
	無利子	有利子	合計	無利子	有利子	合計	無利子	有利子	合計
H22前半件数	663	769	1432	118	42	160	781	811	1592
割合	46	54	100	74	26	100	49	51	100
(割合)	100	100	100	100	100	100	100	100	100
土地改良	0	1	0	2	0	1	1	0	1
建物・施設取得	41	38	40	33	21	30	40	37	39
農機具の取得	47	48	47	52	76	58	48	49	48
運搬用機具取得	1	10	6	3	2	3	1	9	5
果樹等植栽育成	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家畜の購入	6	1	4	4	0	3	6	1	4
長期運転資金	3	1	2	2	0	1	3	1	2
農地取得	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	1	2	1	5	0	4	2	2	2



第1-3表 農業近代化資金：H22前半資金使途別平均借入額（千円）と借入額割合

資金使途別 平均借入額 借入額割合	個人経営				法人経営				全体	
	無利子		有利子		無利子		有利子			
	借入額	割合	借入額	割合	借入額	割合	借入額	割合	借入額	割合
全体	7,913	100	2,513	100	11,874	100	4,735	100	5,515	100
土地改良	3,400	0.1	1,322	0.3	11,196	1.6	0	0.0	4,310	0.4
建物施設取得	8,585	44.5	2,529	38.5	16,354	45.5	7,488	33.9	6,163	43.1
農機具の取得	7,148	42.4	2,730	52.0	8,757	38.1	4,080	65.6	5,042	44.3
運搬機具取得	6,454	1.0	1,437	5.5	9,958	2.1	930	0.5	2,195	2.2
果樹植栽育成	0	0.0	2,680	0.1	0	0.0	0	0.0	2,680	0.0
家畜の購入	10,539	8.6	3,136	1.5	20,440	7.3	0	0.0	10,239	6.6
長期運転資金	6,980	2.8	2,692	0.7	8,240	1.2	0	0.0	6,304	2.0
農地取得	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	5,075	0.6	2,024	1.5	9,709	4.2	0	0.0	4,502	1.3

経営部門別動向

- ・無利子ではこれまで同様農業機械の多い稲作が多く、有利子資金では温室・ハウスの多い施設野菜が多い。耕種部門(稲作から茶まで)の件数割合は84%を占めるが、平均借入額が特に法人経営で畜産の半分近く小さいため、借入額割合では76%になる。

第1-4表 農業近代化資金：H22前半経営部門別件数割合

経営部門別 件数割合	個人経営		法人経営		全体		全体合計
	無利子	有利子	無利子	有利子	無利子	有利子	
H22前半件数	654	767	115	42	769	809	1578
割合	46	54	73	27	49	51	100
(割合)	100	100	100	100	100	100	100
稲作	31	19	48	60	34	21	27
畑作	7	3	6	2	7	3	5
露地野菜	10	12	4	7	9	12	11
施設野菜	20	37	8	12	19	36	27
露地果樹	2	6	0	2	2	6	4
施設花き	6	8	4	2	6	8	7
工芸作物	1	4	1	0	1	4	2
茶	1	1	0	5	1	2	1
酪農	11	2	6	2	10	2	6
肉用牛肥育	6	1	5	0	6	1	3
肉用牛繁殖	2	2	1	0	2	2	2
養豚	1	0	2	0	1	0	1
採卵鶏	0	0	1	0	0	0	0
鶏肉	0	0	0	0	0	0	0
きのこ	1	2	6	2	2	2	2
その他	1	2	8	5	2	2	2

第1-5表 農業近代化資金：H22前半経営部門別平均借入額（千円）と借入額割合

資金使途別 平均借入額 借入額割合	個人経営				法人経営				全体	
	無利子		有利子		無利子		有利子			
	借入額	割合	借入額	割合	借入額	割合	借入額	割合	借入額	割合
全体	7,913	100	2,513	100	11,874	100	4,735	100	5,515	100
稲作	7,552	29.5	3,091	23.2	9,480	37.2	4,744	59.6	6,131	30.0
畑作	8,178	6.9	2,838	2.9	9,511	4.8	12,000	6.0	6,877	5.6
露地野菜	7,559	9.5	2,726	13.3	12,710	4.5	5,810	8.8	4,977	9.5
施設野菜	7,595	19.4	2,147	31.7	8,382	5.4	3,084	7.8	3,974	19.6
露地果樹	8,433	2.1	1,806	4.1	0	0.0	4,190	2.1	3,332	2.2
施設花き	8,105	6.3	2,431	7.7	9,330	3.3	7,500	3.8	4,951	6.1
工芸作物	8,189	1.1	2,825	4.4	5,900	0.4	0	0.0	3,894	1.7
茶	6,174	0.6	2,790	1.6	0	0.0	2,650	2.7	3,714	0.8
酪農	8,911	11.7	3,193	2.6	13,976	7.0	3,000	1.5	8,245	8.7
肉用牛肥育	11,010	8.0	2,871	1.3	18,983	8.1	0	0.0	10,530	6.4
肉用牛繁殖	7,138	1.5	2,167	1.8	7,000	0.5	0	0.0	4,293	1.4
養豚	7,923	0.6	3,130	0.5	8,200	1.2	0	0.0	6,387	0.7
採卵鶏	9,275	0.4	3,120	0.3	20,500	1.5	0	0.0	9,058	0.5
鶏肉	6,310	0.2	4,400	0.7	0	0.0	0	0.0	5,164	0.3
きのこ	7,580	0.9	3,222	2.0	23,279	11.6	10,280	5.2	9,899	2.9
その他	7,324	1.0	1,569	1.3	17,228	11.1	2,575	2.6	6,958	2.7

農業粗収入別動向

- ・個人では1千万円層が最も多いものの、1千万円未満の小規模農家の資金需要も高い。  
法人経営では5千万円以上が多く、個人経営でも多い。
- ・両資金ともに無利子の方が大規模層が多い。

第1-6表 農業近代化資金：H22前半農業粗収入別件数割合

農業粗収入別 件数割合	個人経営		法人経営		全体		
	無利子	有利子	無利子	有利子	無利子	有利子	全体合計
H22前半件数	644	764	98	37	742	801	1543
割合	46	54	73	27	48	52	100
(割合)	100	100	100	100	100	100	100
1千万円未満	18	28	0	11	15	27	21
1千～2千万未満	25	39	7	8	23	38	30
2千～3千万未満	20	20	6	14	18	19	19
3千～4千万未満	11	7	11	14	11	7	9
4千～5千万未満	8	3	14	16	9	4	6
5千～1億未満	14	3	27	19	16	4	10
1億～2億円未満	3	1	18	14	5	1	3
2億円以上	1	0	16	5	3	0	2

戸別所得補償関連

- ・戸別所得補償参加者は無利子資金借入者の36%に当たる。

経営形態別には稲作主体農家が83%を占め、露地野菜、畑作主体農家等が稲作部門で戸別所得補償に参加し、利子助成を受けたケースもある。

資金使途としては農機具の取得が85%で、主食用米の生産と経営改善に貢献している。

第1-7表 農業近代化資金：H22 前半経営形態別戸別所得補償参加者

経営形態別 戸別所得補償	個人経営		法人経営		全体			
	無利子	戸別補償	無利子	戸別補償	無利子	戸別補償	割合	全体
H22前半件数	663	230	118	51	781	281	36	100
稲作	205	188	55	44	260	232	89	83
畑作	44	10	7	2	51	12	24	4
露地野菜	66	14	5	1	71	15	21	5
施設野菜	134	9	9	0	143	9	6	3
露地果樹	13	1	0	0	13	1	8	0
施設花き	41	1	5	1	46	2	4	1
工芸作物	7	0	1	0	8	0	0	0
茶	5	0	0	0	5	0	0	0
酪農	69	4	7	0	76	4	5	1
肉用牛肥育	38	1	6	0	44	1	2	0
肉用牛繁殖	11	0	1	0	12	0	0	0
養豚	4	0	2	0	6	0	0	0
採卵鶏	2	1	1	0	3	1	33	0
鶏肉	2	1	0	0	2	1	50	0
きのこ	6	0	7	0	13	0	0	0
その他	7	0	9	1	16	1	6	0

第1-8表 農業近代化資金：H22 前半資金使途別戸別所得補償参加者

資金使途別 戸別所得補償	個人経営		法人経営		全体			
	無利子	戸別補償	無利子	戸別補償	無利子	戸別補償	割合	全体
H22前半件数	663	230	118	51	781	281	36	100
土地改良	2	0	2	0	4	0	0	0
建物・施設取得	272	29	39	8	311	37	12	13
農機具の取得	311	199	61	41	372	240	65	85
運搬用機具取得	8	1	3	2	11	3	27	1
果樹等植栽育成	0	0	0	0	0	0	0	0
家畜の購入	43	1	5	0	48	1	2	0
長期運転資金	21	0	2	0	23	0	0	0
農地取得	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	6	0	6	0	12	0	0	0

## 2 スーパー L 資金の投資内容（22 前半）

### 借入額別動向

- ・農業近代化資金同様、個人は 500 万円超台がかなり多くなり、無利子化措置の影響が見られる。法人は 1 億円以上の高額投資も割合的には半減したが、依然多い。

第 2 - 1 表 L 資金：H22前半借入額別件数割合

借入額別件数割合	個人経営	法人経営	全体
H22前半件数	759	294	1053
(割合)	100	100	100
5百万円以下	1	2	1
5百万円超～1千	60	41	55
1千万円超～2千	25	23	24
2千万円超～3千	7	12	8
3千万円超～4千	2	3	2
4千万円超～5千	2	3	2
5千万円超～1億円	3	8	4
1億円超	0	7	2

(注) 他の申請案件と併せて 500 万円超になる場合は認定されるため 500 万円以下も計上した。

### 資金使途別動向

- ・個人は農地取得が 4 割と依然多く、規模拡大に貢献しているが、法人経営では建物・施設が多い。平均借入額については、建物・施設が半減したものの、家畜の購入は微増となったため、家畜購入の方が高くなった。しかし件数の多い建物・施設が、借入額割合では最も多くなる。農地取得が 1 千万円程度で変化がない。

第 2 - 2 表 L 資金：H22前半資金使途別件数割合

資金使途別件数割合	個人経営	法人経営	全体
H22前半件数	759	294	1053
(割合)	100	100	100
土地改良	0	0	0
建物・施設の取得	22	33	25
農機具の取得	19	18	19
運搬用機具の取得	0	0	0
果樹等の植栽育成	0	0	0
家畜の購入	6	7	7
長期運転資金	2	3	2
農地取得	40	14	32
その他	10	25	14

第2 - 3表 L資金：H22前半資金使途別平均借入額（千円）と借入額割合

平均借入額 借入額割合	個人経営		法人経営		全体	
	平均借入額	割合	平均借入額	割合	平均借入額	割合
全体	14,081	100.0	37,255	100.0	20,551	100
土地改良	9,525	0.2	0	0	9,525	0.1
建物・施設取得	21,936	34.7	51,801	45.4	32,755	40.1
農機具の取得	8,174	11.0	13,432	6.5	9,589	8.7
運搬用機具取得	5,300	0	5,300	0	5,300	0.0
果樹等植栽育成	0	0	0	0	0	0.0
家畜の購入	18,965	8.7	97,476	18.7	42,519	13.8
長期運転資金	13,890	1.9	81,988	6.0	37,576	4.0
農地取得	11,163	31.4	12,112	4.5	11,277	17.8
その他	16,423	12.0	27,884	18.8	22,003	15.5

経営部門別動向

- ・L資金は畜産の割合が高くなるため、耕種部門は件数割合で63%あるが、平均借入額では畜産部門の畜舎など建物や家畜購入費の投資額が大きいため、耕種部門の借入額割合では36%に低下する。

第2 - 4表 L資金：H22前半経営部門別件数割合

経営部門別件数割合	個人経営	法人経営	全体
H22前半件数	755	276	1031
(割合)	100	100	100
稲作	31	25	29
畑作	8	7	8
露地野菜	13	7	11
施設野菜	6	6	6
露地果樹	2	4	3
施設花き	5	2	4
工芸作物	1	0	1
茶	0	1	1
酪農	17	8	15
肉用牛肥育	6	9	7
肉用牛繁殖	2	1	2
養豚	2	8	3
採卵鶏	1	6	2
鶏肉	0	4	1
きのこ	1	3	1
その他	3	8	4

第2 - 5表 L資金：H22前半経営部門別平均借入額（千円）と借入額割合

平均借入額 借入額割合	個人経営		法人経営		全体	
	平均借入額	割合	平均借入額	割合	平均借入額	割合
全体	14,081	100.0	37,255	100.0	20,551	100.0
稲作	9,882	21.5	12,450	7.8	10,469	14.6
畑作	13,762	8.2	12,125	2.0	13,403	5.1
露地野菜	11,314	10.4	12,103	2.1	11,442	6.2
施設野菜	11,025	5.1	18,353	2.8	12,913	3.9
露地果樹	9,124	1.4	25,225	2.5	15,684	2.0
施設花き	10,144	3.7	26,083	1.4	12,269	2.6
工芸作物	9,039	0.9	15,280	0.1	9,559	0.5
茶	10,667	0.3	36,825	1.3	25,614	0.8
酪農	18,437	21.9	33,361	7.0	20,725	14.4
肉用牛肥育	28,878	12.7	100,485	23.9	54,382	18.3
肉用牛繁殖	10,532	1.7	57,000	1.0	15,423	1.4
養豚	32,480	4.6	58,311	11.2	47,548	7.9
採卵鶏	29,756	2.5	88,156	12.9	67,132	7.8
鶏肉	7,533	0.2	47,688	5.2	39,657	2.7
きのこ	32,250	1.2	76,222	6.3	62,692	3.8
その他	16,686	3.1	36,392	6.3	24,491	4.8

農業粗収入別動向

- ・農業近代化資金より経営規模は1ランク上にある。個人では2千万円台が多く、法人経営は1億円以上の農家が多い。L資金でも小規模農家の資金需要はある。

第2 - 6表 L資金：H22前半農業粗収入別件数割合（500万円超 / 500万円以下別）

農業粗収入別数割合	個人経営	法人経営	全体
H22前半件数	755	270	1,025
（割合）	100	100	100
1千万円未満	9	5	8
1千～2千万円未満	17	4	13
2千～3千万円未満	19	4	15
3千～4千万円未満	14	7	12
4千～5千万円未満	10	5	8
5千～1億万円未満	19	27	21
1億～2億万円未満	8	15	10
2億万円以上	3	33	11

戸別所得補償関連

- ・戸別所得補償参加者は無利子資金借入者の30%に当たる。

経営形態別には稲作主体農家が82%を占め、露地野菜、畑作主体農家等が稲作部門で戸別所得補償に参加し、利子助成を受けたケースもある。

資金使途としては、農地取得が47%、農機具の取得が36%で、主食用米の生産と規模拡大による農家の経営安定に貢献した。

第2-7表 L資金：H22前半経営形態別戸別所得補償参加者

経営形態別 戸別所得補償	個人経営		法人経営		全体			
	無利子	戸別補償	無利子	戸別補償	無利子	戸別補償	割合	全体
H22前半件数	763	255	294	61	1,057	316	30	100
稲作	234	207	69	51	303	258	85	82
畑作	64	7	18	3	82	10	12	3
露地野菜	98	18	19	3	117	21	18	7
施設野菜	49	8	17	1	66	9	14	3
露地果樹	16	3	11	0	27	3	11	1
施設花き	39	1	6	0	45	1	2	0
工芸作物	11	2	1	0	12	2	17	1
茶	4	0	4	0	8	0	0	0
酪農	127	1	23	0	150	1	1	0
肉用牛肥育	48	2	26	0	74	2	3	1
肉用牛繁殖	17	2	2	0	19	2	11	1
養豚	16	0	21	0	37	0	0	0
採卵鶏	9	0	16	0	25	0	0	0
鶏肉	3	0	12	0	15	0	0	0
きのこ	4	0	9	0	13	0	0	0
その他	20	4	22	1	42	5	12	2

第2-8表 L資金：H22前半資金使途別戸別所得補償参加者

資金使途別 戸別所得補償	個人経営		法人経営		全体			
	無利子	戸別補償	無利子	戸別補償	無利子	戸別補償	割合	全体
H22前半件数	763	255	294	61	1,057	316	30	100
土地改良	2	0	0	0	2	0	0	0
建物・施設取得	169	33	96	13	265	46	17	15
農機具の取得	144	85	53	29	197	114	58	36
運搬用機具取得	1	1	1	1	2	2	100	1
果樹等植栽育成	0	0	0	0	0	0	0	0
家畜の購入	50	0	21	0	71	0	0	0
長期運転資金	15	0	8	0	23	0	0	0
農地取得	301	133	41	15	342	148	43	47
その他	80	3	74	3	154	6	4	2

### 3 経営部門別資金使途（22年度前半）

#### （1）農業近代化資金

##### ア 個人経営

・農業機械は稲作、露地野菜等のコンバイン、トラクターで、耕種作物が多い。建物・施設は施設野菜、施設花きの温室・ビニールハウスが多い。

施設野菜の長期運転資金はハウスのレンタル料の一括払いが多い。

第3-1表 農業近代化資金（個人経営）：H22 前半経営部門別資金使途：実数

個人経営資金使途件数割合	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	茶	工芸作物	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
土地改良	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5
建物・施設	46	9	41	282	17	79	7	1	26	10	11	4	1	2	10	14	560
農機具	292	55	102	79	27	12	23	14	45	6	8	2	2	3	3	6	679
運搬用機具	9	0	15	28	8	4	6	1	0	2	1	1	0	0	5	2	82
果樹等植栽	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
家畜の購入	0	0	0	0	0	0	1	0	14	29	6	0	0	0	0	0	50
長期運転資金	1	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
農地取得	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	1	6	2	7	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	19
合計	350	64	160	419	57	102	37	16	85	47	27	7	4	5	18	23	1421

##### イ 法人経営

・法人経営でも半数を占める稲作の農業機械が多く、また建物・施設でも稲作と施設野菜が多い。耕種部門が多いのは個人と同じであるが、法人はきのこ施設が比較的多い。

第3-2表 農業近代化資金（法人経営）：H22 前半経営部門別資金使途：実数

法人経営資金使途件数割合	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
土地改良	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
建物・施設	13	2	2	7	1	1	0	0	2	3	1	2	0	0	6	7	47
農機具	63	6	6	2	0	3	1	2	4	0	0	0	0	0	2	3	92
運搬用機具	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
果樹等植栽	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家畜の購入	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	5
長期運転資金	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
農地取得	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	2	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6
合計	80	8	8	14	1	6	1	2	8	6	1	2	1	0	8	11	157



(2) スーパーL資金

ア 個人経営

- ・個人経営は農地取得が4割を占めるが、その多くは主食米生産の稲作が占めるが、畑作はほとんどが農地取得である。露地野菜、酪農でも農地取得が多い。
- 建物・施設は、21年に経営が回復した酪農が多い。
- 農機具では稲作が多く、半数を占める。

第3-3表 L資金(個人経営): H22 前半経営部門別資金使途: 実数

個人経営資金使途件数割合	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
土地改良	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
建物・施設	29	6	14	24	4	18	3	1	43	6	2	3	3	2	4	5	167
農機具	75	7	23	4	1	1	0	1	23	3	1	1	0	0	0	4	144
運搬用機具	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
果樹等植栽	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家畜の購入	1	0	0	0	0	0	0	0	20	21	5	2	0	0	0	1	50
長期運転資金	3	0	1	2	1	4	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	15
農地取得	113	51	54	13	6	5	8	1	34	5	4	1	0	0	0	5	300
その他	12	0	3	6	4	11	0	1	6	11	4	9	6	1	0	5	79
合計	233	64	98	49	16	39	11	4	127	48	17	16	9	3	4	20	758

イ 法人経営

- ・法人経営では、建物・施設が最も多く、稲作を始め平均的に分布している。
- 農地取得は法人では少ないものの、稲作、畑作等で多いのは個人と同じ。
- 稲作が最も多いのは個人と同じであるが、法人は肉用牛肥育の家畜の購入、養豚、採卵鶏、鶏肉の飼料代など畜産の割合が高くなる。

第3-4表 L資金(法人経営): H22 前半経営部門別資金使途: 実数

法人経営資金使途件数割合	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
土地改良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
建物・施設	17	3	3	7	3	3	0	1	9	8	2	6	8	6	3	6	85
農機具	24	5	8	1	1	0	0	2	3	0	0	1	1	0	0	5	51
運搬用機具	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
果樹等植栽	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家畜の購入	0	0	0	0	0	0	0	0	5	14	0	0	1	0	0	1	21
長期運転資金	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	7
農地取得	14	7	6	2	2	0	1	0	5	1	0	0	0	0	0	2	40
その他	11	3	2	5	5	3	0	1	1	3	0	13	6	5	6	7	71
合計	69	18	19	17	11	6	1	4	23	26	2	21	16	12	9	22	276

4 平成 22 年度前半建物・施設の取得及び農機具の取得の内訳

(1) 農業近代化資金

建物・施設の取得の経営部門別件数内訳

ア 個人経営

・建物・施設の内訳としては、温室・ハウスが半数以上で、施設野菜は小型のビニールハウスを含めて多く、施設花きも多い。次に多いのは農舎・倉庫で露地野菜、稲作が多い。

このため、施設野菜が最も多く、施設花き、稲作の順で、畜舎は酪農が多いのはこれまでと同じ。

第 4 - 1 表 農業近代化資金（個人経営）：H22 前半建物・施設取得の内訳：実数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
農舎、倉庫	17	6	19	9	7	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	64
畜舎	1	1	1	0	0	0	0	0	19	8	11	2	1	0	0	0	44
温室、ハウス	12	0	11	265	7	72	3	0	0	0	0	0	0	0	2	12	384
果樹棚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
加工・作業所	7	2	2	3	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	17
貯蔵乾燥施設	8	0	4	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
糞尿処理施設	1	0	0	1	0	0	1	0	5	1	0	2	0	1	0	0	12
その他	0	0	4	3	3	2	0	0	0	0	0	0	0	1	8	2	23
合計	46	9	41	282	17	79	7	1	26	10	11	4	1	2	10	14	560

イ 法人経営

・法人経営でも温室・ハウスが多く、施設野菜が多いが、経営部門では稲作が多い。また、きのこ施設が多いのもこれまでと同じである。

第 4 - 2 表 農業近代化資金（法人経営）：H22 前半建物・施設取得の内訳：実数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
農舎、倉庫	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
畜舎	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	2	5
温室、ハウス	4	0	1	7	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	16
果樹棚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
加工・作業所	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	10
貯蔵乾燥施設	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3
糞尿処理施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5	1	8
合計	13	2	2	7	1	1	0	0	2	3	1	2	0	0	6	7	47

農機具の取得の経営部門別件数内訳

ア 個人経営

- ・トラクター、コンバイン、収穫用農機具が多く、稲作、露地野菜、施設野菜などの耕種部門が多い。畜産部門では、酪農、肉用牛繁殖が個人経営では多い。

第4-3表 農業近代化資金（個人経営）：H22 前半農機具の取得の内訳：実数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
トラクター	57	34	56	40	1	6	11	0	27	1	4	0	0	2	0	2	241
田植機	24	2	2	6	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	37
収穫用農機具	27	10	29	13	18	0	8	8	13	4	1	1	0	0	0	1	133
コンバイン	140	8	7	10	1	3	1	3	0	0	1	1	1	1	0	0	177
乾燥機	23	0	1	4	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	32
出荷用選別機	10	0	5	5	1	2	0	0	0	1	0	0	1	0	2	1	28
給餌機	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
搾乳機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
製茶機	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	4
その他	11	0	2	1	4	1	1	0	4	0	1	0	0	0	0	1	26
合計	292	55	102	79	27	12	23	14	45	6	8	2	2	3	3	6	679

イ 法人経営

- ・法人でもコンバイン、トラクターが多く、特に稲作での割合が高くなる。ほかの耕種部門は法人が少なく、個人経営が主体であることを反映している。

第4-4表 農業近代化資金（法人経営）：H22 前半農機具の取得の内訳：実数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
トラクター	15	2	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	23
田植機	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
収穫用農機具	11	0	4	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	19
コンバイン	28	4	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34
乾燥機	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
出荷用選別機	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
給餌機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
搾乳機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
製茶機	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	8
合計	63	6	6	2	0	3	1	2	4	0	0	0	0	0	2	3	92

(2) スーパーL資金

建物・施設の取得の経営部門別件数内訳

ア 個人経営

- ・温室・ハウスと畜舎が多くなる。特に酪農は個人経営では最も多い。
- ・L資金では畜産の割合が高くなる。

第5-1表 L資金(個人経営): H22 前半建物・施設取得の内訳: 実数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
農舎、倉庫	13	5	9	1	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	33
畜舎	0	0	0	0	0	0	0	0	36	5	2	2	2	2	0	0	49
温室、ハウス	5	1	3	21	3	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	51
果樹棚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
加工・作業所	6	0	1	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
貯蔵乾燥施設	5	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	9
糞尿処理施設	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	1	5
その他	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	1	0	4	0	9
合計	29	6	14	24	4	18	3	1	43	6	2	3	3	2	4	5	167

イ 法人経営

- ・これまで畜舎が半数を占めていたが、大きく減少した。特に、前年最も多かった養豚、採卵鶏が大きく減少した。きのこ施設も大きく減少した。
- ・耕種部門では稲作以外はこれまでも少ない。

第5-2表 L資金(法人経営): H22 前半建物・施設取得の内訳: 実数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
農舎、倉庫	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	4
畜舎	0	0	0	0	0	0	0	0	4	6	1	2	7	4	0	1	25
温室、ハウス	2	1	1	6	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	17
果樹棚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
加工・作業所	4	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	2	0	1	0	2	13
貯蔵乾燥施設	6	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	9
糞尿処理施設	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	5
その他	2	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	2	1	12
合計	17	3	3	7	3	3	0	1	9	8	2	6	8	6	3	6	85

農機具の取得の経営部門別件数内訳

ア 個人経営

- ・これまで多かった高価なコンバインが減少し、トラクターがコンバインより多くなった。稲作の割合が高く、稲作以外では露地野菜が目立つ程度である。

第5 - 3表 L資金（個人経営）：H22 前半農機具の取得の内訳：実数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
トラクター	27	7	14	2	0	0	0	0	15	2	1	0	0	0	0	2	70
田植機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
収穫用農機具	6	0	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	14
コンバイン	39	0	2	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	46
乾燥機	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
出荷用選別機	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
給餌機	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
搾乳機	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
製茶機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
合計	75	7	23	4	1	1	0	1	23	3	1	1	0	0	0	4	144

イ 法人経営

- ・稲作のコンバインはなお多く、また露地野菜以外の経営部門は少ない。

第5 - 4表 L資金（法人経営）：H22 前半農機具の取得の内訳：実数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
トラクター	6	1	4	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	15
田植機	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
収穫用農機具	0	2	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	8
コンバイン	10	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
乾燥機	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
出荷用選別機	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	6
給餌機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
搾乳機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
製茶機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	7
合計	24	5	8	1	1	0	0	2	3	0	0	1	1	0	0	5	51

(資料) 本分析における資金使途の例示 (農業近代化資金、L資金共通)

	資金使途	整備内容	主な例示
1	土地改良		農地造成、耕地整備、用排水施設整備、暗渠(布設工事)、灌水施設(ハウス外)
2	建物・施設の取得	1. 農舎、倉庫	機械収納庫
		2. 畜舎	畜舎内施設整備も含む(バークリーナー)
		3. 温室、ハウス	温室内整備も含む(光合成促進機、育成管理施設、ボイラー)
		4. 果樹棚	
		5. 加工・作業所	製茶建物、アイス工房、精米プラント
		6. 貯蔵乾燥施設	ライスセンター、コロラックシステム(タバコ乾燥)
		7. 糞尿処理施設	堆肥舎、堆肥化装置
		8. その他	きのこ栽培施設、防霜扇、災害被害修理、柵、売店、スプリンクラー、牛群管理システム
3	農機具の取得	1. トラクター	
		2. 田植機	
		3. 収穫用農機具	防除機、掘取機、刈取機、乗用管理機、摘茶機、ハーベスター、スプリンクラー、ホイロローダー
		4. コンバイン	
		5. 乾燥機	
		6. 選別機	出荷用選別機、包装機、洗浄機
		7. 給餌機	
		8. 搾乳機	
		9. 製茶機	
		10. その他	農作業以外の機械(粃すり機、精米機、ボイラー、コンベア、ヘリコプター)
4	運搬用器具の取得		トラック、ワゴン
5	果樹植栽・育成		
6	家畜の購入		
7	長期運転資金		出資金、リース料、権利金、研修費用、開発費
8	農地取得		
9	その他	農業用資材の取得	コンテナ、ほだ木、菌床、防風ネット、球根・苗、育成費、飼料代、短期的なもの、井戸

## 無利子化措置に対する融資機関の意向

利子助成交付事業に係る J A , 銀行等融資機関から 100 機関を選定し調査票を发出、90 機関から回答を得た。

### 1 無利子化措置の効果について

平成 19 年度から平成 21 年度までの 3 年間、認定農業者が借り入れる農業近代化資金とスーパー L 資金を対象として無利子化措置が実施された後、平成 22 年度、貸付当初 5 年間の無利子化措置が実施されているが、これに対する融資機関の意向は次のとおりである。

#### ( 1 ) 担い手農業者にとっての効果 ( 別紙 1 参照 )

質問：無利子化措置の導入は、担い手農業者にとってどのような効果があるとお考えですか。融資機関の顧客の場合に限らず、該当項目に全て をつけて下さい ( 複数回答可 )
ア 計画的な設備投資の遂行 ( 負担軽減による実施、決断等 ) ...60%
イ 新規投資の導入 ( 経営改善意欲の喚起等 ) ...72%
ウ 規模拡大の決断 ( 近隣に農地が売りに出された、施設の増築、家畜の購入等 ) ...51%
エ 投資計画の前倒しまたは投資規模の拡大 ( 既存計画の見直し等 ) ...26%
オ 売上げ増加に結びつかない施設等の設置・導入 ( 汚水処理、省エネ施設等 ) ...11%
カ 金利負担軽減による経営難の克服 ( 資材価格の高騰、農産物価格の低迷に対処 ) ...44%
キ わからない... 1%
ク その他... 3%

融資機関が考える担い手農業者にとっての無利子化措置の効果としては、経営改善意欲の喚起などの「新規投資の導入」が回答機関の 72% と最も多く、別の利子助成対象農家の調査でも無利子化で融資を受けた理由として「無利子なので検討」が 4 割弱、計画の前倒しが 2 割で 6 割が前向きに対応していたが、融資機関においても同様な意向になっている。

次いで負担軽減による実施、決断などの「計画的な設備投資の遂行」が 60% であったが、同様に利子助成対象農家の調査でも残りの 4 割がもともと計画していたとしていた。利子助成対象農家の意見としても経営改善、投資の意欲を喚起したといった意見があったが、融資機関も同様に判断している。

また、融資機関の意向としては「規模拡大の決断」51%、「金利負担軽減による経営難の克服」44% が続くが、経営改善に対するプラス思考の方が勝っている。

#### ( 2 ) 融資機関にとっての効果 ( 別紙 2 参照 )

質問：無利子化措置の導入は、融資機関 ( 貸付業務 ) にとって導入以前と比べどのような変化がありましたか。該当項目に全て をつけ、その他の場合は簡潔に記述して下さい ( 複数回答可 )
ア 融資相談の機会の増加...41%
イ 認定農業者向け農業近代化資金、スーパー L 資金の貸付けの増加...80%
ウ 上記イ以外の資金 ( プロパー資金等 ) の貸付けの増加等波及効果... 8%
エ あまり変化はない...15%
オ その他... 8%

融資機関（貸付業務）にとっての導入以前との変化としては、「あまり変化はない」が15%と低く、多くは変化があったとしているが、最も多いのは「認定農業者向け農業近代化資金、スーパーL資金の貸付けの増加」で回答機関の80%、次いで「融資相談の機会の増加」が41%であった。一方で、景気の悪さから「借入相談や貸付けが減少」しているのが実態との意見や問い合わせは増えたが利子助成の対象とはならず融資実行にはいたらず、あまり変化がないとの意見もあった。

## 2 融資機関における担い手への情報提供方法（別紙3参照）

質問：融資機関においては、担い手農業者（顧客）に対して利子助成金交付事業（無利子化措置）に係る情報提供をどのように行っていますか（複数回答可）

情報提供時期について

- ア 定期的に・・・7%
- イ 不定期・・・20%
- ウ 借入希望者からの融資相談があったとき・・・87%
- エ その他・・・2%

情報提供方法について

- ア 説明会の開催・・・3%
- イ パンフレットなど紙媒体での提供・・・35%
- ウ 融資機関HPなど電子媒体での提供・・・1%
- エ 資料等を用いた個別説明・・・70%
- オ その他・・・3%

担い手農業者（顧客）に対する利子助成金交付事業（無利子化措置）に係る情報提供の時期については、「借入希望者からの融資相談があったとき」がほとんどで、回答機関の87%であった。次いで「不定期」が20%、「定期的に」7%であった。

不定期の例示としては「戸別訪問時」、「支所窓口への来所時」、「生産者部会会合時」、「セミナー開催時」を、定期的は「担い手農業者への訪問活動を月2回実施」、「資金需要調査時に全戸FAX」を挙げているように、融資機関によっては積極的に働きかけている。

また、情報提供の方法については、「資料等を用いた個別説明」が回答機関の70%と最も多く、借入希望者からの融資相談があった時に対応していると思われる。

「パンフレット等紙媒体」が35%であった。



(別紙1) 担い手農業者にとっての無利子化措置の効果〔回答機関数89〕

	計画的な設備投資の遂行(負担軽減による実施、決断等)	新規投資の導入(経営改善意欲の喚起等)	規模拡大の決断(近隣に農地が売りに出された施設の増築、家畜の購入等)	投資計画の前倒しまたは投資規模の拡大(既存計画の見直し等)	売上げ増加に結びつかない施設等の設置・導入(汚水処理、省エネ施設等)	金利負担軽減による経営難の克服(資材価格の高騰、農産物価格の低迷に対処)	わからない	その他	計
件数	53	64	45	23	10	39	1	3	238
割合	60%	72%	51%	26%	11%	44%	1%	3%	

(注) 割合は回答機関数を100とした場合(以下同じ)。

〔その他の意見の内容〕

- ・無利子化措置の効果は大きかったと思うが、その恩恵はほんの一部の担い手しか受けていないのが現状と思われるので、更に5年間の無利子化措置の継続をお願いしたい。
- ・無利子化は様々な効果が出てきていると思われる。今後も継続の方向でお願いしたい。
- ・現状水準の基準金利では借入者負担利率が元々0%又は0.1%であったため借入者にとっての効果はなかった。当組合管内の市町村の利子補給が手厚いことが原因であるが、結果的に県と市町村への効果があっただけで借入者と融資機関にとっては事務負担が増加しただけであった

(別紙2) 融資機関にとっての効果〔回答機関数88〕

	融資相談の機会の増加	認定農業者向け農業近代化資金、スーパーL資金の貸付けの増加	左以外の資金(プロパー資金等)の貸付けの増加等波及効果	あまり変化はない	その他	計
件数	36	70	7	13	7	133
割合	41%	80%	8%	15%	8%	-

〔その他の意見の内容〕

- ・21、22年度については、無利子化措置が実施されても景気の悪さから、借入相談、貸し付けも減少しているのが実態である。
- ・件数は横ばいであるが金額が減少しており、1件当たりの投資金額が減少している。
- ・19～21年度(全期間無利子)と比べ相談・申込件数は減少。
- ・スーパーL資金の貸付増加はあったが、農業近代化資金は伸び悩んでいる。無利子化部分は事業費が高額化。
- ・1件あたり貸付金額の増加
- ・農業者からの問い合わせは増加したが、利子助成の対象とならず融資実行までに至らなかったケースもあり、全体としては変化はない。
- ・無利子融資については現行システムでは対応できない部分もあり、期日管理等が必要であり金融機関の負担が大きい。

(別紙3) 融資機関における担い手農業者への情報提供時期、方法

項目		件	割合%	主な内容
情報提供時期 104件 回答機関数 90	定期的に	6	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資金需要調査時に全戸FAX</li> <li>・営農計画書作成時に提供</li> <li>・年度初めに借入希望者を取りまとめ</li> <li>・担い手農業者への訪問活動を月2回実施</li> </ul>
	不定期	18	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸別訪問時</li> <li>・支所窓口への来所時(資金申込みに関係なく)</li> <li>・生産者部会会合時</li> <li>・JA広報誌・チラシ作成時</li> <li>・資金需要時</li> <li>・セミナー開催時</li> <li>・担当者研修開催時</li> </ul>
	融資相談のとき	78	87	
	その他	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸別訪問の推進</li> <li>・既存先へのアピールと紹介</li> </ul>
情報提供方法 100件 回答機関数 89	説明会の開催	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者研修開催時に実施</li> <li>・異業種参入セミナーの開催</li> </ul>
	パンフレット等紙媒体	31	35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレット、JA広報誌</li> <li>・県提供のパンフレット</li> <li>・信連作成のチラシ</li> <li>・FAX文書等</li> </ul>
	HP等電子媒体	1	1	
	資料等を用いた個別説明	62	70	
	その他	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・営農アドバイザーにつなげる</li> <li>・群馬県農業機械商協同組合を通じて</li> <li>・制度資金の金利が助成後の金利で対応している(即ち低利である)ため、借入者への具体的な説明は特にしていない</li> </ul>